

令和元年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール研究実施報告（第3年次）（概要）

1 研究開発課題名	<p>企業の社会的責任（CSR）を全うするプロフェッショナル人材の育成 -21世紀型近江商人育成プランによる、「商業道德」を身に付けた「三方よし」を実践できるビジネスリーダーの育成を目指して-</p>		
2 研究の概要	<p>本研究では、CSRを全うするプロフェッショナル人材の育成を目指し、次の資質・能力を育成する学習プログラムの開発に取り組んだ。</p> <p>(1) 高いコンプライアンス意識を持ち企業の社会的責任を全うする力 (2) 主体的に社会に参画し積極的に社会に貢献する力 (3) 多様な文化や価値観を理解し、他者の存在を認め他者と協働し、グローバルに活躍できる力 (4) 地域の伝統・歴史・文化を理解し、その良さを認識し、地域の一員として地域創生に貢献できる力 (5) 高度な専門知識を活用し、説明責任を果たせる力</p>		
3 令和元年度実施規模	<p>1年全学科全クラス、2年選択科目「近江商人探究Ⅱ」「商品開発」履修者、3年選択科目「近江商人探究Ⅲ」「課題研究」履修者を対象として実施した。なお、SPH特別講座は全校生徒を対象に、近江商人再生プロジェクトや海外インターンシップ等への参加は希望者を対象に実施した。</p>		
4 研究内容	<p>○研究計画</p> <table border="1" data-bbox="193 1151 1401 2089"> <tr> <td data-bbox="193 1151 363 1532"> <p>第1年次 ～ 第3年次</p> <p>※は2年次より実施、 ※※は3年次より実施</p> </td> <td data-bbox="363 1151 1401 2089"> <p>(1) 高いコンプライアンス意識を持ち企業の社会的責任を全うする力 ・「近江商人探究Ⅰ」… 企業の社会的責任（CSR）ならびにコンプライアンス意識を理解・体得するために近江商人の「三方よし」について理解させる。 ※「近江商人探究Ⅱ」… 「商業道德」の理解を通してコンプライアンス意識の必要性を理解するとともに、CSRを全うする基礎力を身に付けさせる。「近江商人探究Ⅰ」との指導内容の系統性や一体性を確保する。 ※※「近江商人探究Ⅲ」… 企業の社会的責任（CSR）を全うする力を身に付けさせるために、「リーダーシップ」の必要性を理解する能力を育てる。「近江商人探究Ⅰ・Ⅱ」との指導内容の系統性や一体性を確保する。</p> <p>・1年生販売実習… 近江商人の「三方よし」特に「世間よし」が実践できる能力、すなわち社会にとって良い企業活動ができる能力を育てる。 ・近江商人再生プロジェクト… 企業利益だけでなく、社会全体の利益も考えることが必要であるので、両方をバランスよく追求する能力を育成する。 ・3年生販売実習（八商マルシェ）… 自発的に倫理観を持った活動ができる能力を育て、責任感、リーダーシップ、CSRを全うする力につなげる。</p> <p>(2) 主体的に社会に参画し積極的に社会に貢献する力 ・SPH特別講演会… 経営者を外部講師として招聘し、企業経営におけるCSRと「三方よし」の実際について話を聞き知識を習得する。 ・各種コンテストへの応募… 「世間よし」を生かした企画力・創造力の育成 ※受発注システムの開発… Web活用能力と社会全体の利益も考えられる能力を同時に育成する。 ・「商品開発」… 売れる商品やサービスを考える力の育成と、商品や起業に関</p> </td> </tr> </table>	<p>第1年次 ～ 第3年次</p> <p>※は2年次より実施、 ※※は3年次より実施</p>	<p>(1) 高いコンプライアンス意識を持ち企業の社会的責任を全うする力 ・「近江商人探究Ⅰ」… 企業の社会的責任（CSR）ならびにコンプライアンス意識を理解・体得するために近江商人の「三方よし」について理解させる。 ※「近江商人探究Ⅱ」… 「商業道德」の理解を通してコンプライアンス意識の必要性を理解するとともに、CSRを全うする基礎力を身に付けさせる。「近江商人探究Ⅰ」との指導内容の系統性や一体性を確保する。 ※※「近江商人探究Ⅲ」… 企業の社会的責任（CSR）を全うする力を身に付けさせるために、「リーダーシップ」の必要性を理解する能力を育てる。「近江商人探究Ⅰ・Ⅱ」との指導内容の系統性や一体性を確保する。</p> <p>・1年生販売実習… 近江商人の「三方よし」特に「世間よし」が実践できる能力、すなわち社会にとって良い企業活動ができる能力を育てる。 ・近江商人再生プロジェクト… 企業利益だけでなく、社会全体の利益も考えることが必要であるので、両方をバランスよく追求する能力を育成する。 ・3年生販売実習（八商マルシェ）… 自発的に倫理観を持った活動ができる能力を育て、責任感、リーダーシップ、CSRを全うする力につなげる。</p> <p>(2) 主体的に社会に参画し積極的に社会に貢献する力 ・SPH特別講演会… 経営者を外部講師として招聘し、企業経営におけるCSRと「三方よし」の実際について話を聞き知識を習得する。 ・各種コンテストへの応募… 「世間よし」を生かした企画力・創造力の育成 ※受発注システムの開発… Web活用能力と社会全体の利益も考えられる能力を同時に育成する。 ・「商品開発」… 売れる商品やサービスを考える力の育成と、商品や起業に関</p>
<p>第1年次 ～ 第3年次</p> <p>※は2年次より実施、 ※※は3年次より実施</p>	<p>(1) 高いコンプライアンス意識を持ち企業の社会的責任を全うする力 ・「近江商人探究Ⅰ」… 企業の社会的責任（CSR）ならびにコンプライアンス意識を理解・体得するために近江商人の「三方よし」について理解させる。 ※「近江商人探究Ⅱ」… 「商業道德」の理解を通してコンプライアンス意識の必要性を理解するとともに、CSRを全うする基礎力を身に付けさせる。「近江商人探究Ⅰ」との指導内容の系統性や一体性を確保する。 ※※「近江商人探究Ⅲ」… 企業の社会的責任（CSR）を全うする力を身に付けさせるために、「リーダーシップ」の必要性を理解する能力を育てる。「近江商人探究Ⅰ・Ⅱ」との指導内容の系統性や一体性を確保する。</p> <p>・1年生販売実習… 近江商人の「三方よし」特に「世間よし」が実践できる能力、すなわち社会にとって良い企業活動ができる能力を育てる。 ・近江商人再生プロジェクト… 企業利益だけでなく、社会全体の利益も考えることが必要であるので、両方をバランスよく追求する能力を育成する。 ・3年生販売実習（八商マルシェ）… 自発的に倫理観を持った活動ができる能力を育て、責任感、リーダーシップ、CSRを全うする力につなげる。</p> <p>(2) 主体的に社会に参画し積極的に社会に貢献する力 ・SPH特別講演会… 経営者を外部講師として招聘し、企業経営におけるCSRと「三方よし」の実際について話を聞き知識を習得する。 ・各種コンテストへの応募… 「世間よし」を生かした企画力・創造力の育成 ※受発注システムの開発… Web活用能力と社会全体の利益も考えられる能力を同時に育成する。 ・「商品開発」… 売れる商品やサービスを考える力の育成と、商品や起業に関</p>		

	<p>する関係法令の理解</p> <p>(3) 多様な文化や価値観を理解し、他者の存在を認め他者と協働し、グローバルに活躍できる力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生国内インターンシップ、海外インターンシップ… 国内や海外のインターンシップ先の従業員の方々やお客様方と接することにより、多様な文化や価値観を理解する能力を育てる。 <p>※海外販売実習… グローバルな視野でビジネスを実践できる能力と、多様な文化や価値観を理解しながらビジネスを実践できる能力を育てる。</p> <p>(4) 地域の伝統・歴史・文化を理解し、その良さを認識し、地域の一員として地域創生に貢献できる力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題研究「観光基礎講座」… 近江八幡市の歴史的・文化的価値を深く理解する能力を身に付けさせる。 ・各種ゼミへの参加… 主体的に地域社会に参画できる能力を育成する。 <p>(5) 高度な専門知識を活用し、説明責任を果たせる力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度資格取得… 簿記・会計の専門知識を習得させる。 ・高大連携講座… ビジネスリーダーに必要な論理的思考力を身に付ける。
--	---

○令和元年度の教育課程の内容 (別紙「令和元年度教育課程表」参照)

本校では、1年次より商業科、情報処理科、国際経済科の3学科に分かれて学習を進めている。

○具体的な研究事項・活動内容

(1) 高いコンプライアンス意識を持ち企業の社会的責任を全うする力

- ・「近江商人探究Ⅰ」 【近江商人探究プログラム】

本校作成の副読本を用いて CSR の概念と近江商人についての理論的な学習を行い、「三方よし」の精神を理解させた。学習内容としては、ア) 近江商人の理念と商法、イ) 近江商人の「三方よし」の精神、ウ) 近江商人の複式簿記、エ) 近江商人の家訓や遺訓、オ) 外部講師による講演や資料館見学、などであった。その後、CSR の概念について、具体的な企業の CSR と関連付けて分析・考察する学習活動を行った。
- ・「近江商人探究Ⅱ」 【近江商人探究プログラム】

本校作成の副読本を用いて「商業道徳」について学習するとともに、コンプライアンス意識の必要性を理解させた。学習内容としては、ア) 勤勉・倹約・正直・堅実・陰徳善事などの信用を得るために必要な個人の徳、イ) 企業などの組織に必要な徳、ウ) すべての人々を大切にす心、エ) 石田梅岩や渋沢栄一が説いた商業道徳でありコンプライアンス意識の必要性を理解させた。
- ・「近江商人探究Ⅲ」 【近江商人探究プログラム】

近江商人探究のまとめとして位置づけた科目であり、本校作成の副読本を用いて「経営者とリーダーシップ」について学習するとともに、CSR を全うできる人材の育成を目標とした。学習内容は、ア) 近江商人の「押し込め隠居」、イ) 企業不祥事、ウ) 企業の社会的責任(CSR)、エ) ソーシャル・ビジネス、オ) 経営者のリーダーシップ等である。経営者がとるべき姿勢を理解させるとともに、経営者のリーダーシップが CSR を全うするためには重要になることを学習させた。
- ・1年生販売実習 【起業家育成プログラム】

1年生で学ぶ学校設定科目「近江商人探究Ⅰ」や「ビジネス基礎」「簿記」「情報処理」の知識を実際に活用する機会として実践的な学習活動を行った。この実習を「近江商人再生プロジェクト」の基礎トレーニングとして位置付け、販売地域の設定、商品及び金銭管理等を生徒に取り組みさせた。1年生全員を対象に、行商による販売実習を各クラス 10 班体制で実施した。
- ・近江商人再生プロジェクト 【起業家育成プログラム】

1～3 年の各科目のなかで、個人の利益だけを追求するのではなく社会全体の利益も考えることを学習した後、特に課外活動として、近江商人にゆかりのある土地を訪ね、行商を中心とした販

売実習及び仕入実習を行い、社会全体の利益を考えられる能力を体得する。今年度は、この取組を全国の商業高校でも安価に利用していただけるよう検証するために、大阪方面へ電車を利用して実施した。販売実習では、タブレット端末等を使用したクラウド型 POS システムを活用した。また「1枚ポートフォリオ」も活用し、自己の成長を確認した。資金調達については、滋賀県の中小企業に寄付を依頼し、実地的な資金調達を目指した。さらに、株式会社高島屋大阪店、西川株式会社大阪オフィス、ヤンマー株式会社尼崎工場には、企業研修の協力をいただいた。

・ **3年生販売実習（八商マルシェ）** **【起業家育成プログラム】**

CSRを全うするための課題の解決策を見いだす学習活動である。「近江商人再生プロジェクト」に参加した生徒が、販売活動や仕入れ活動で得たノウハウを全ての生徒に還元し、3年生全員が実践的な仕入れや販売を体験する機会として「八商マルシェ」を企画し、その運営を生徒に行かせた。「課題研究」の授業において準備を行ない、市内7か所での固定販売を11月に実施した。

(2) **主体的に社会に参画し積極的に社会に貢献する力**

・ **SPH 特別講演会…企業経営に関する知識の習得** **【近江商人探究プログラム】**

企業経営における CSR と「三方よし」に関する知識をビジネスの事例と関連付けて考察する学習活動である。最終年度の今年度は、研究テーマの CSR について現役社長2名より特別講座を行っていただいた。CSR とは何なのか、「三方よし」との関連は、それぞれの社長はどのような思いで CSR を行っているのかなどを考えるための材料として特別講座を設定した。

・ **各種コンテストへの応募…企画力・想像力の育成** **【近江商人探究プログラム】**

ビジネスに関する課題について、生徒の感性や考え方をもとに解決を目指し企画力・創造力を育てる学習活動として、日本政策金融公庫のビジネスプラングランプリ等への応募を行った。今年度は、昨年度以上に「世間よし」やソーシャルビジネスをアイデアの中に入れるよう指導した。

・ **「商品開発」** **【起業家育成プログラム】**

商品を企画・開発し、流通させるために必要な知識と技術、商品開発に必要なデザインに関する知識と技術及び知的財産権に関する知識を体験的に習得させ、顧客満足を実現することの重要性について理解させた。また、消費者の視点に立って流通活動を行う能力と態度も育てた。

・ **Web 流通システム構築…Web 活用能力の育成** **【起業家育成プログラム】**

ビジネス情報管理では、Web の仕組みを理解し、セキュリティにも配慮し有効活用できるような流通システムを構築・活用できるようサーバサイドを中心とした内容に取り組んだ。またプログラム開発では、情報機器の有効な利活用を念頭に、操作端末の OS に左右されない、利用者の視点に立ち、フロントエンドを中心に取り組んだ。それぞれの実習を通して、活用能力の育成だけでなく、社会全体の利益も考えられる能力を同時に育成することを目的とした。

(3) **多様な文化や価値観を理解し、他者の存在を認め他者と協働し、グローバルに活躍できる力**

・ **1年生国内インターンシップ** **【グローバル人材育成プログラム】**

今年度も以前から実施してきた1年生全員を対象とした地元企業・商店でのインターンシップを継続実施した。企業・商店内での仕事やお客様への対応などを通して多様な価値観を理解し、広い視野に立った行動をすることができる能力を育てた。

・ **海外インターンシップ** **【グローバル人材育成プログラム】**

今年度の海外インターンシップも2年生国際経済科の生徒を対象に希望者を募り実施した。ベトナムでのインターンシップを通して、多様な価値観を理解する能力を育てることができた。なお、一部の生徒しか参加できないため、学んだ内容についてはSPH通信を利用して参加生徒の学びを全生徒に発信したり、いくつかの授業のなかでの報告により他の生徒へ還元した。

・ **海外販売実習** **【グローバル人材育成プログラム】**

今年度の海外販売実習も2年生商業科と情報処理科の生徒を対象に希望者を募り実施した。今年度は、ベトナムの現地にある日本企業において日本の商品を販売することを通して、多様な文化や価値観のなかでビジネスを実践する力を育てることができた。参加生徒の学びの還元につい

ては海外インターンシップと同様に実施した。

(4) 地域の伝統・歴史・文化を理解し、その良さを認識し、地域の一員として地域創生に貢献できる力

・ **課題研究「観光基礎講座」** **【地域の担い手育成プログラム】**

学校近くにある八幡堀周辺の実地調査を行い、近江八幡市の歴史的・文化的価値を深く理解し、その価値を観光や商品開発に活用できる能力を育成した。また、レポートやプレゼンテーションにより、近江八幡市の歴史的・文化的価値を広く国内外に発信できるような取り組みについても考えさせた。近江八幡観光物産協会から講演にも来ていただいた。

・ **各種ゼミへの参加** **【地域の担い手育成プログラム】**

近江八幡市と連携し、近江八幡未来づくりキャンパスに参加し、地域創生・地域づくりについての学びを深める予定であったが、近江八幡未来づくりキャンパスが開催されなかったため、実施できなかったが、地域の担い手育成を目的に近隣の専門高校4校（本校・八幡工業高校・八日市南高校・甲南高校）が連携し販売実習等を行った。

(5) 高度な専門知識を活用し、説明責任を果たせる力

・ **高度資格取得** **【エキスパート人材育成プログラム】**

全国商業高等学校協会（全商）主催の各種検定で3種目以上の1級、日本商工会議所（日商）主催簿記検定1級など、高度な資格取得にチャレンジさせた。早朝や放課後の補習を通して、学習習慣の定着化をはかることができ、合格した生徒には自信を持たせることができた。

・ **高大連携講座** **【エキスパート人材育成プログラム】**

説明責任を果たせる能力を身に付けさせるために滋賀大学と連携した講座を課題研究に開設し、企業不祥事やソーシャルビジネスについての学習を行うとともに、論理的思考や自分の意見を構成・表現する方法などの学習も行なった。また、高崎商科大学とも連携しネットを通しての簿記会計の学習を深め、財務諸表で企業の会計処理を説明できる能力を身に付けた。

5 研究の成果と課題

○研究成果の普及方法

- ・ 全国の商業高校と滋賀県内の各高校へは、研究実績報告書等を送付する。
- ・ 1月24日(金)にSPH成果発表会を開催した。また2月15日(土)の県成果発表会に参加した。
- ・ 本校のホームページに「近江商人探究Ⅲ」の冊子原稿や発行済みのSPH通信をアップした。
- ・ 滋賀大学で実施された第37回学校社会学研究会において「商業教育における高大連携」と題して発表した。また、小樽商科大学商学部の岡部教授に2年分の報告書をお渡した。
- ・ 普及状況は、現在あまり波及効果は認められないが、京都府立木津高校が「三方よし」を授業で扱っているとのことである。さらに、韓国ソウル大学の教授や高校の先生方40名程が視察のために来校された。高知県立伊野商業高校と宮崎県立本庄高校も視察に来られた。ベトナムでの海外実習の際に、東京都立南多摩中等教育学校の先生が視察に来られた。また、「近江商人再生プロジェクト」において京都すばる高校と松阪商業高校の2校と交流を行った。

○実施による効果とその評価

- ・ 文部科学省生徒向け共通アンケートの4項目すべてにわたり「思う」「どちらかと言えば思う」が8割～9割と高い割合であり、各事業に対する満足度が高かったということがわかった。
- ・ 外部機関等向けアンケート結果では3項目すべてで「思う」「どちらかと言えば思う」が90%以上であり、高評価をいただいた。また、委員の方からは「SPH事業で、近江商人の倫理観を基礎にしたCSR、リーダーシップのあり方などを学ぶことで、生徒はこれまでと全く異次元の学習を受けることができている。当然の結果として普通の高校生とは違った新たな気づきやモノの考え方などを習得できたと思います。また同時に商業学を学ぶ上で大事な「商いの心」に重点を置いた研究内容は商業系の大学ですらあまり教えていない内容で、大変有意義な教材であり、このプロジェクトが終了しても八幡商業高校の特色として今後も何らかの形でカリキュラムに取り込んでほしいと考えます」という評価を頂戴した。

- ・文部科学省教員向け共通アンケート結果からも、生徒の変化と学校の変化があったことが読み取れる。3項目すべてにおいて「思う」「どちらかと言えば思う」が85%以上であった。また、本校の教員アンケートにおいて次の点で評価がなされていた。①生徒が失敗し成長できる活動は素晴らしい。次年度以降、指定がなくなってからの継続が難しいが、大切にしていきたい。②机上の学習だけでなく、販売実習など体験を通して生徒には“生きた学習”ができ、よかったと思う。
- ・3年間の取組を通して、生徒が「三方よし」の精神という精神的支柱を獲得したことが大きな成果である。学校全体の取組（クラブ活動・特別活動も含む）の中で、理論の学習と体験学習を行き来したり、さらにその中で「三方よし」の精神や「商業道德」や「リーダーシップ」を行き来して学習することにより、CSRを全うするビジネスリーダーに必要な「三方よし」の精神という精神的支柱を育成できるということがわかった。
最終年度としてのCSRに関するいくつかの取組については以下に報告する。
- ①各学期の始業式・終業式において学校長より「日頃の一人一人の行動に責任を持つことが、CSRを全うすることにつながるので、責任をもって『考動』（自ら考え行動すること）するように」を旨とする式辞があった。
- ②4月初めのSPH通信において、全校生徒に次の2点を意識して実行してほしいと訴えた。
 - ア) 普段の学校生活や家庭生活における「インテグリティ（誠実さ、高潔さ）」の実行
 - イ) 学校生活の中で「三方よし」を意識して実行
 なお、クラブ顧問の先生方には「三方よし」を意識して部活動指導をして頂くよう依頼した。また、近江商人再生プロジェクトにおいて近江尚商会阪神支部のOBの方から、商業を実践するに当たっての心構えについて話を頂いた。近江商人再生プロジェクトに参加した生徒は、帰校後の感想文に“うそ（嘘）”は商業活動を行なう中で、最もいけない、してはいけないことだと学びました。将来、お客様に真摯に向きあっていきたいです”と記している。
- ③企業の社会的責任（CSR）に関するSPH特別講演会を2回実施した。7月と1月に二人の現役社長より、CSRとは何か、「三方よし」との関連、社長の思いと両社のCSRの実例について語っていただいた。
- ④滋賀大学との高大連携授業を、課題研究「ビジネスリーダー養成講座」において実施した。高大接続・入試センターの特任准教授に、JR宝塚線脱線事故やブラックバイト等の企業不祥事について講義をしていただき、企業の社会的責任（CSR）について学習した。先生からは、「おかしいことをおかしいと思う感性が大切であり、その感覚を養ってほしい」というメッセージが生徒たちに伝えられた。
- ⑤「近江商人探究Ⅲ」の授業では、企業不祥事を起こした企業についてタブレットで調べ、その企業を自分としてどう思うか、自分が経営者ならばどうするか等を「CSR新聞」と題して作成させ、一人ずつ発表させた。さらに、企業のCSR報告書をレポートにまとめさせた。経営者のリーダーシップがCSRを全うするためには重要になることを学習した。
- ⑥「近江商人探究Ⅱ」の授業は、本校作成の副読本を用いて「商業道德」について学習するとともに、コンプライアンス意識の必要性を理解させた。この授業を受けた生徒が、「2年生になって頑張りたいことは、不屈の精神を手に入れ、陰徳善事をするを心がけたいと思っています。どんなことにも挑戦する姿勢でいきたい」と記していた。CSRにつながる「すべての人々を大切に作る心」を培う学習である。
- ⑦海外インターンシップにおいては、ベトナムに進出している日本企業を訪問し、それらの企業がどのようなCSRを実践しているかについて見聞させていただいた。海外という環境や異文化の中で、CSRを実践するのがどれだけ大変かを実感したようである。
- ・3年間の取組成果は、SPH対象学年に対して行った「3年間追跡生徒アンケート」結果の評

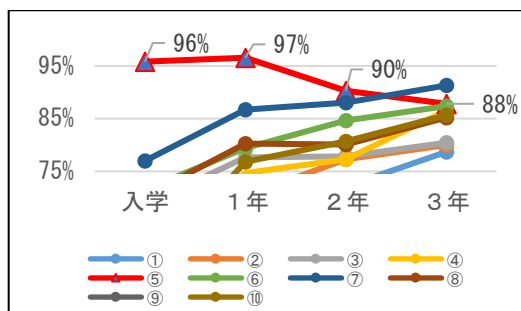
価からもわかる。注目した項目は「⑤法律はもちろんのこと、学校などのルールもしっかり守るように心がけている。」「⑩企業の社会的責任（CSR）を全うできる人材に成長できましたか。」の2つである。⑤法令順守の割合は、＜グラフ1＞では学年が進行するに従い右肩下がり傾向にあるにも拘わらず、＜グラフ2＞から探究ⅡやⅢを履修した生徒は増加しているということがわかる。また、＜グラフ3＞は⑩CSRを全うできる人材に成長できたかについての評価結果であるが、探究ⅡやⅢを履修した生徒は「できた」の評価が高く、「できなかった」の評価はゼロであった。一方、探究ⅡやⅢを履修しなかった生徒は「できなかった」という生徒が少数ではあるが存在した。このように評価結果からも、CSRを全うするための資質・能力を身に付けるための学習プログラムを開発することができたとと言える。企業不祥事や問題商法を無くすためには、高校段階からのCSRに関する学習が必要であり、そのためのプログラムの一つになり得ると考えている。

・なお、学校の変容については、次の3点である。

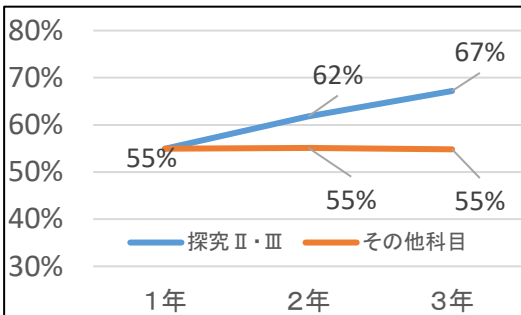
- ①「近江商人の士官学校」として、今までよりも「近江商人の精神と倫理」を伝えることができた。各学年での「近江商人探究」で理論を学習し、その後販売実習で実践を行う。さらには「三方よし」の精神と「商業道徳」・「リーダーシップ」の間を行き来し、試行錯誤と改善を繰り返しながら、3年間を通して生徒は「近江商人の精神と倫理」を体得するのである。この「近江商人の精神と倫理」が、CSRを全うするための源流となるのである。今までよりも深い学びが実現できた点が非常に大きな変容である。
- ②SPH事業の2年目より、国公立大学への入学生が増加した。滋賀大学や高崎商科大学との高大連携授業を受講したり、外部講師の講義を聞いたりするなかで、学問の楽しさやもう少し学びたいという気持ちを持つようになり、大学への進学を希望するようになったのであろう。
- ③クラブ活動の中で「三方よし」やCSRを生かしてもらうことができた。簿記珠算部の全国高等学校簿記コンクール準優勝や、家庭部の政所茶を使った商品開発、男子サッカー部がチームとして高円宮杯U-18サッカーリーグ2019滋賀でのフェアプレー賞獲得等をあげられる。3年間のSPH事業の成果が、生徒を通して社会の貢献に繋がることを願っている。

○実施上の問題点と今後の課題

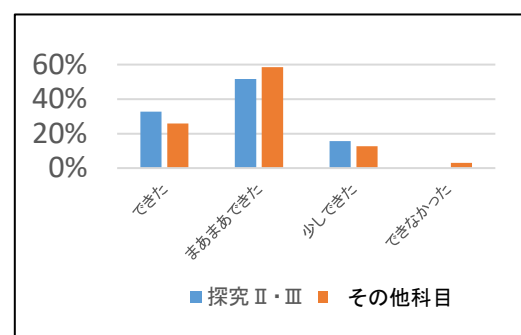
- ・今年度の問題点として、教員アンケートの中で次の2点が指摘された。①手続きや相手先との調整にとってもコスト（時間・手間）が必要となった。②“創造力”にとぼしい生徒が多く見られるのが残念である。どうすれば“創造力”を伸ばすことができるのか難しいところである。
- ・今後の課題としては、次の3点があげられる。①近江商人探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを可能な限り全員に学習させる。②実践の柱である実習については可能な限り継続する。③近江商人再生プロジェクトについては、日数や経費を減らしても今までと同様の効果を期待できる実践のあり方を検討する。その中で「すべての人々を大切に作る心」を育み、「世の中の役に立つ」行動を取れる人材を育成していきたい。



＜グラフ1：3年間の「1. 大変ある」「2. 普通にある」の合計割合＞



＜グラフ2：⑤法令順守の科目別「1. 大変ある」の推移＞



＜グラフ3：⑩CSRを全うできる人材の科目別の比較＞